八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニューズレター

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER
発行部数 3,000 部
Vol. 44
2020年4月発行

冬季企画展
昔のくらしシリーズ:住の道具

開館10周年記念講座
資料・指定管理・外から見る植田家住宅

新連載
「日日植田家住宅」

連載コラム
「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十八)」

http://kyu-uedakejutaku.jp/

展示のご案内

八尾市指定文化財　やすなかしんでんかいしょあと　きゅううえだけじゅうたく

安中新田会所跡 旧植田家住宅

【通常展】

大和川付替えと植田家の収蔵品

2020年　- 工芸品編 -

6月17日(水)～7月19日(日)

河内平野の変遷、大和川付替えの歴史、八尾と旧植田家の出来事について年表形式のパネルで分かりやすく展示しています。また、植田家に伝わる収蔵品の一部を紹介します。

【企画展】※5/9(土)～再開予定

古文書にみる植松

4月24日(金)～6月14日(日)

現在、新型コロナウイルス感染拡散防止のため5月6日(水)まで、臨時休館しています。順次再開を予定していますが、今後の状況によって変更する場合があります。ご了承ください。

2020年4月30日

休館日＝火曜日、祝日の翌日、年末年始

開館時間＝午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【観覧料】一般２５０円、高校・大学１２０円、中学生以下は無料

◎お問い合わせ TEL/FAX 072-992-5311

開館日等についてはＨＰに掲載。詳細はお問い合わせ下さい

企画展「古文書にみる植松」2020年4/24(金)−6/14(日)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品：工芸品編」6/17(水)−7/19(日)

※新型コロナ特措法における「緊急事態宣言」の発令(4/7)により、現時点での予定については今後変更（中止）となる場合があります。

※休館日は P15 をご覧ください

NEWS LETTER
旧植田家だより
KYU-UEDAKE INFORMATION
Volume 44

Contents

4 冬季企画展
昔のくらしシリーズ：住の道具

6 旧家で暖家支援「石臼珈琲体験」

7 旧家で芸能・伝統文化 落語の会

8 開館 10 周年記念講座
資料・指定管理・外から見る植田家住宅

10 連続体験講座「手習い所 - 其の壱 -」

11 日日植田家住宅 第 1 日：休植田家住宅

12 四会所だより（24）鴻池新田会所

13 植ちょピ（お茶会、ギャラリー展示、他）

14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 -（三十八）」

15 旧植田家住宅のご案内

ギャラリーにてバックナンバー配架中 ※

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからもダウンロードできます。
http://kyu-uedakejutaku.jp

表紙写真

《井戸舎の釣瓶（つるべ）》

滑車に吊るして井戸から水を汲むための桶。現在は電気のポンプで汲み上げ、蛇口をひねると水が出てくるようになっている。
「昔のくらしシリーズ：住の道具」は 4・5 頁を参照。

小学校の教科書に登場する昔のくらしや道具、集めてみました!

矢立（やたて）

爪皮付の下駄

タイプライター

- 冬季企画展 -

昔のくらしシリーズ：じゅう住の道具

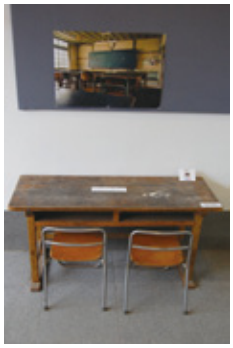
？

令和２年（2020年）

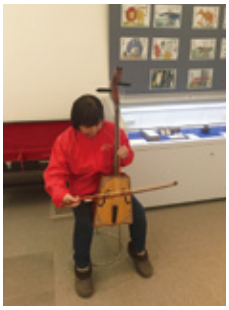
1月5日（日）―3月16日（月）

小学校国語の教科書の表紙（全学年）

なつかしい～。


昭和の小学校机

食の道具が多くのこるカマヤの様子


ギャラリートークにて、馬頭琴を体験するスタッフ

冬季企画展

昔のくらしシリーズ：住の道具

これまで「衣」「食」と実施してきた冬季企画展「昔のくらしシリーズ」の今回は、「住の道具」として、現在の小学校の教科書（主に国語）に登場する様々な昔の道具を、旧植田家住宅の収蔵品の中から取り上げた。毎年この時期は、小学校3年の単元「昔のくらし」にあわせて展示を行なっているが、本展示内容は全学年にも対応しており、未就学児から大人の方まで楽しんでもらえるものとした。また今年は、新型コロナウイルスの影響により、会期中に臨時休館に入ったことで3月3日までの実施となった。

・学年別展示品紹介

企画展開催にあたり、まずは八尾市の小学校で使用されている国語と社会の教科書全学年分を、旧植田家住宅の収蔵品と照合。3年生社会科「昔のくらしと道具」を除外すると、1年生国語には「おむすびころりん」と「たぬきの糸車」の作中に小槌やお膳、糸車に障子などが登場することが分かる。展示品としては木製小槌に銀製古槌（いずれも

1年生国語「おむすびころりん」より
（こづち、お膳など）

きんの　こばんが

ざっくざく。

おいしい　ごちそう

さあ　どうぞ。

木彫「鼠」要慶 作

1年生国語「たぬきの糸車」より
（やぶれ障子・糸車・糸束など）

キーカラカラ…　キークルクル…

4年生国語「百人一首に親しもう」より
（小倉百人一首かるた各種）

3年生国語「三年とうげ」より
（木綿反物）

5年生国語「大造じいさんとガン」より
世界観がよく似た掛軸（月下芦雁図）

今年も、残雪は、ガンの群れを
率いて、ぬま地にやって来ました。

きなこは、大豆をいって、
こなにひいたものです。

木うすでついて、石うすで
ひいてこなにする。

3年生国語「すがたを変える大豆」と「モチモチの木」より（石臼・抹茶用石臼）

記念品及び飾り物）、祝い膳、ネズミを象った木彫が前者の作品で、糸車、糸束、やぶれ障子（非収蔵品）などが後者に対応する。また物語に登場する文章の一説も添えて展示。

同様に3年生は「ローマ字」「コマを楽しむ」「すがたを変える大豆」「モチモチの木」「三年とうげ」からタイプライター、コマ各種（遊び道具）、石臼、反物を、4年生は「ごんぎつね」からお歯黒道具、5年生は「大造じいさんとガン」から世界観がよく似た掛軸《月下芦雁図》（今井景樹）と「わらぐつの中の神様」から爪皮付きの下駄（雪下駄）を、6年生は「河鹿の屏風」から矢立と枕屏風をそれぞれ展示した。また4年生から学習する「百人一首」についても、小倉百人一首かるた複数点を展示した。

なお2年生だけは該当する昔の道具がなかったため、2月の「ギャラリートーク（昔の道具にふれてみよう）」にて、「スーホの白い馬」に登場する楽器・馬頭琴（個人蔵）を体験できる機会を設けた。他にも社会の教科書から伝統文化や芸術、また戦時中のくらしに対応する道具なども展示し、教科書の有用性について改めてふれる機会となった。

（旧植田家住宅 学芸員　安藤 亮）

旧家で暖家支援

石臼珈琲体験

初企画「旧家で暖家支援」（～3月1日）の期間中、新しい試みとして2回に分けて実施した「石臼珈琲体験」。七輪を使って焙煎した珈琲豆を石臼で挽いてコーヒーを淹れてみる（ミル＝製粉）という、珈琲好きにはたまらない企画です。

ただしこの石臼珈琲体験、何と2時間かけてようやくカップ一杯のコーヒーが楽しめます。体験の趣旨は、珈琲の文化について知ってもらうとともに、楽しみながら昔の道具を使うことにあります。今回講師をお願いしたのは、当施設指定管理者のメンバーで、カフェを営む北村さん。厳選した生の珈琲豆を用意して下さり、豆の選別作業から参加者は体験しました。

珈琲の歴史や淹れ方など様々な話を聞き、その間に七輪で炭火熾し。これがなかなか上手くいかず、開始から既に30分が経過。次の焙煎では30分ほど腕を動かし続けます。ようやく焙煎が終わると石臼でミル。交代で作業を続け、最後は講師自らが珈琲を淹れ、これで2時間です。

さて、その味は、というと。ぜひ、来年も実施を予定していますので、みなさんで参加して体験してみてください。

（旧植田家住宅スタッフ）

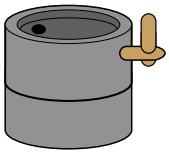
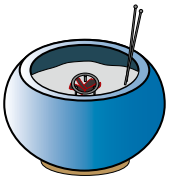
旧家で暖家（あったか）支援

1/18（土）
2/16（日）

日にち限定イベント

七輪で焙煎した珈琲豆を石臼で挽いてみる会

石臼珈琲体験

七輪の炭火は火鉢で再利用

ひたすら揺り動かすこと30分

参加者たちで良い豆を選別

珈琲について説明する講師

これで２時間

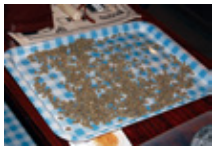
珈琲の香ばしい匂いが広がる

炭火を熾した七輪

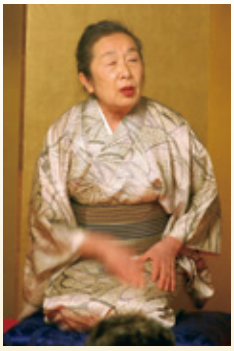
様々な種類の珈琲豆

交代して石臼で珈琲豆を挽く

専用の焙煎器で珈琲豆を焙煎


焙煎前の状態

※写真は2/16に実施した分の様子



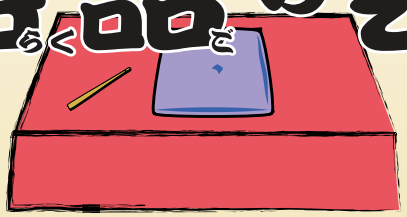
天神亭 つき日「初天神」

令和２年（2020）
２月１５日（土）

天満家 芝楽「幸助餅」

旧家で芸能・伝統文化

落語の会



出演：素人寄席 天満天神の会

天神亭 岩塩「竹の水仙」

天神亭 真ん紀「子は鋏」

旧家で芸能・伝統文化 落語の会

毎年２月に開催される「落語の会」では、素人寄席・天満天神の会に出演いただいています。出演者は、初めての方から何度もご出演いただいているベテランの方など、演目も含めてバラエティに富んでいます。

今回も４名の方にお越しいただき、演目は天神亭つき日さんの「初天神」から始まり、天満屋芝楽さんの「幸助餅」、休憩（中入り）を挟んで、天神亭真ん紀さんの「子は鋏（かすがい）」、天神亭岩塩さんの「竹の水仙」の順に行なわれました。それぞれ個性が発揮され、特に今回は人情に訴えかける噺が多かったように思います。そのため感情がとても揺さぶられ、「喜」の感情はいうまでもなく、「哀」が優って笑いがより豊かになっていくようでした。

落語で語られる内容は、時代や人物などを知らなくても楽しむことができます。また旧植田家住宅の座敷で開催されることで、文化的背景とも相まって、より身近に感じられました。昔のくらしや文化にふれてみる機会として来年の開催も期待します。

（指定管理者 NPO法人HICALI）

開館10周年記念講座

開館一〇周年記念講座
「資料・指定管理・外から見る旧植田家住宅」

安中新田会所跡旧植田家住宅は、二〇〇九年の開館から今年度で一〇周年を迎えた。先駆けて記念講演会や記念展示を実施してきたが、十二月から今年二月にかけては開館一〇周年記念講座全三回を開講した。これまでの歩みの集大成とすべく、各講座においては「資料」「指定管理者」「外部」の異なる視点から見える旧植田家住宅について、各担当講師が解説した。

第一回「資料から見る旧植田家住宅」

令和元年(二〇一九)十二月二日(月)、ふだんは土日の午後に行なっている講座を今回は試験的に平日の午前に開講。いつもと違う参加者層を狙ってのことであったが、裏目に出たようだ。悪天候も後押し、少人数でのスタートとなった第一回講座は、「旧植田家住宅に伝わる資料の話」と題して、当施設学芸員が一〇年間の展示を振り返った。

まずは自己紹介として施設の位置づけと指定管理者、学芸員の役割等について説明、旧植田家住宅の沿革についてもおさらいをした。本講座の核となる「資料」については約四万点にのぼる収蔵品をジャンルごとに分類し、本題の展示について言及した。これまで一〇年間で四〇回以上の企画展と常設展の入れ替えも行なってきたが、とりわけ四つの企画展を取り上げて資料調査の過程や新発見の資料について解説。まだ表に出していない資料も数多くあり、今後も地域資源として保存・活用する決意を新たにした。

ギャラリートークも敢行

開館10周年記念講座

第二回「指定管理者の話」

年明け十二日(日)は第二回「指定管理者の話」を開講。テーマがいまいち不明確というご指摘も受けつつ、旧植田家住宅の指定管理者であるNPO法人HICALIが講師となり、その活動と歴史についてメンバー数名で紹介した。

施設の取り組みについては、ほとんどの場合は外面的な部分しか知ることができない。本講座では内部のことについて、内部の視点から活動を振り返った。前理事長の挨拶と活動紹介に続き、当法人の中心的活動のひとつ「まちあるきマップ」の作成について制作者の北村氏がその意義と成果について語った。

最後に現理事長の澤田からは、現在過去未来とつながる活動において、地域との連携の重要性を視野に入れながら、今後の展望を明らかにした。

和気藹々とした雰囲気に包まれて

開館10周年記念講座

第三回「外からみた旧植田家住宅」

第三回講座は二月一日(土)、講師に阪南大学国際観光学部准教授の和泉大樹先生をお迎えし、施設にとっても最大の関心事である「外部からみた旧植田家住宅」(の評価)についてお話を頂いた。和泉先生には年二回の施設管理運営会議にもオブザーバーとして参加頂いており、客観的かつ具体的な例を挙げながら施設の活動について紹介していただいた。

今回のテーマとして提示されたのは「その取り組みから考える魅力と期待」。他の施設との比較も交えて、全体的に高評価をいただいた(ように捉えた)。とくに地域性や時代性を活かした事業の展開は施設の魅力となり、今後の発展にもつながるという。そのための「コンセプト」創りと発信が最重要であると締め括られた。

様々なジャンルの方々が参加した

開館10周年記念講座

安中新田会所跡
旧植田家住宅

2020年 体験 連続講座

手習い所（てならいしょ）

よみ・かき・そろばん

※このイベントは体験講座です。
書道やそろばんは教えません。

手習所とは…
江戸時代、手習師匠が町人の子弟に読み書きや計算などを教えた学問施設のこと。
上方（関西）では寺子屋とよばれる。

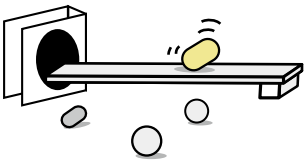
◇連続体験講座「手習い所～其の壱～」

江戸時代の学問所・寺子屋（手習所）では「よみ・かき・そろばん」を通して生活に必要なことを学んだといいます。連続体験講座「手習い所」では、寺子屋のエッセンスを用いて、古今東西の「遊び」を学びます。昨年と同様、今回も全2回を予定していましたが、新型コロナの影響によるイベント自粛のため「其の壱」だけの実施となりました。

数名の小学生と実習中の大学生が参加し、まず最初に「判じ絵」とよばれる江戸時代の絵解きクイズに挑戦。頭を柔軟にしたところで、続いて江戸時代のからくり玩具「俵ころばし」を現代風にアレンジしたものを、説明を聞きながら全員で作りました。三〇分ほどの短い時間でしたが、最後に完成した玩具をコースで転がし、大盛り上がりでした。

（旧植田家住宅 スタッフ）

完成した玩具をコースで転がして遊ぶ様子。



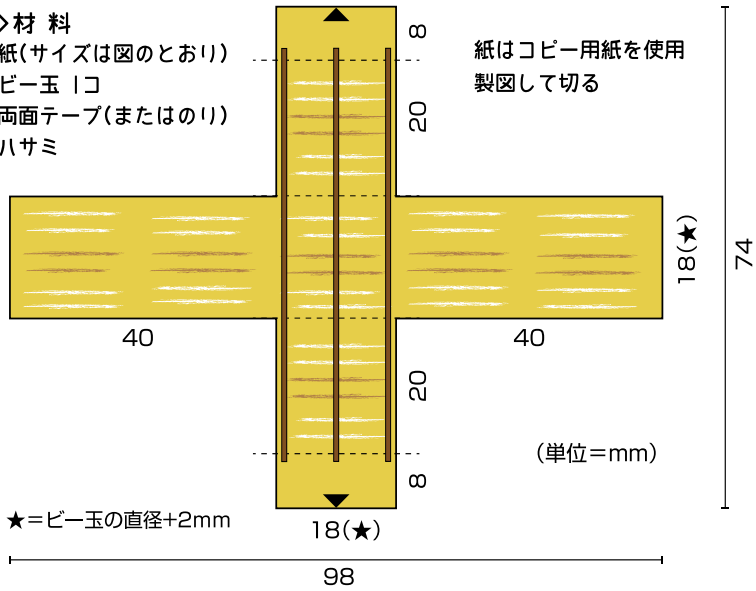
作って遊ぼう！

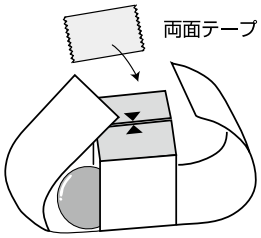
“現代版”江戸時代のからくりおもちゃ　2020.2.29" 其の壱 "

かんたん！ビー玉で「俵（たわら）ころばし」

◇材 料
・紙（サイズは図のとおり）
・ビー玉 1コ
・両面テープ（またはのり）
・ハサミ

紙はコピー用紙を使用
製図して切る

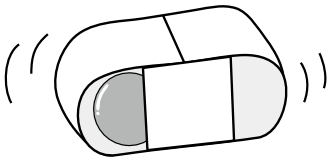




はる。

※▲は重ねないで、図のようにつきあわせてテープをはる。

⇓ 完成！

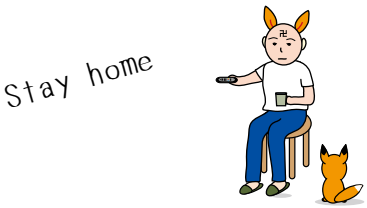


雑記帳

日日植田家住宅

－日常から日用まで－

第１日：休植田家住宅



【日日（ひび）植田家住宅、始めます】

「植田家だより」発行１号から４３号までの10年間、畑に特化して話題をお届けして参りました「なにわの伝統野菜栽培日記」に替わり、今号からは畑を含む旧植田家住宅の日常と日用を伝える「日日植田家住宅」を始めます。タイトルロゴの上に小さく「雑記帳」とあるように、わざわざ言うことでもないような話題から、何かしら役に立つこともあるかもしれない情報などをお届けできればと思います。

【休植田家住宅・間違い探し答え】

２月末、新型コロナウイルスの感染拡大対策として国から出された「全国小中高の一斉休校」の要請を受け、３月３日より旧植田家住宅も臨時休館を余儀なくされました。当初２週間の休館予定も延長が続き、４月の「緊急事態宣言」発令以後、５月６日までの延長が決まりました。

そんな中、全国各地の博物館等では、自宅で楽しめる、ＳＮＳを活用した独自のコンテンツを発信する「＃エア博物館」や「＃おうちミュージアム」などの取り組みを３月から始めています。遅れをとって旧植田家住宅でも「休植田家住宅」として４月に座敷などを活用したリアル間違い探しをブログで公開しました。

間違い探しは２枚の写真を見比べて、全部で７つの間違いを探すもので、掃除と資料整理がてら実際に物を動かして撮影しました。正解は言うまでもなく簡単ですが、折角なのでこの場を使って答え合わせをしたいと思います。まだの人はぜひ挑戦してみてください。

間違い探し～座敷編～

↑正の図　　間違いの図↓

答え

①床の間の掛軸が「稲荷詣（菅楯彦）」から「節句幟」になっている
②床の間の柱が貼りパネルで作成した偽物
③床の間の戸袋の引き手（四枚の戸）の順番が違う
④床の間に飾られた壷（a pot）が電気ポット（electric pot）に…
⑤「座敷１」のサインが「座敷２」になっている
⑥襖絵（松鶴図）の一面が別の一面になっている
⑦座敷机がひとまわり小さな机に替わっている

四会所だより（24）

鴻池新田

「新開池と大蛇伝説」

出雲の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）は斐伊川そのものである。山腹に伸びる斐伊川支流や下流部の網状流は八つの尾と頭を表している。「腹はいつも血がにじんでいる」のは鉄穴（かんな）流しで砂鉄を採集するために花崗岩を切り崩した赤土が常に流れていた、あるいは酸化によって赤変した砂鉄が流れていたとも解釈できる。大蛇伝説は出雲のみならず各地に派生がみられる。ここ河内では大和川付け替えにも大蛇が関わっていた、狭山池の雌の大蛇は貴志に棲む雄の大蛇のところへ通う道中で田畑を荒らした、などなど。

大和川付け替え工事の後新開池は干拓され、その大部分が「鴻池新田」になった。よく「埋め立てた」と表現されるが、わざわざ他所から土を運んで客土したとは考えにくく、縦横無尽に水路を掘って、その残土を盛り上げ圃場にしたと考えられる。開発当初は約155haであったが、周辺の新田の買収をすすめ幕末までには約200haとなった。大和川付け替えによってできた新田地の総面積が約1160haなので、鴻池新田は相当な割合を占めていたことがわかる。

新開池は内助ケ渕（ないすけがふち）、あるいは勿入渕（ないりそのふち）とも呼ばれていた。新田開発以前は周囲の村々は新開池で漁をし、生計を立てていたようだ。もちろん漁だけではなく、田畑を持ち農作業にも従事していただろう。内助ケ渕は長田の長者屋敷の下男（あるいは漁師）・内助の名に由来し、つい最近まで「東大阪市長田内介」という住所地があった。勿入渕の「勿」は「禁」の字に置き換えることができる。すなわち「入るなかれの渕」という意である。

新開池についての誤解を解いておこう。新開池に寝屋川や大和川が流れ込んでいたわけではない。厳密には寝屋川や大和川水系とは人為的に切り離されていた。新開池は古川や楠根川、菱江川と寝屋川との合流点周辺の堤内地で滞水していた「内水」である。寝屋川とともに古川や楠根川、菱江川は天井川化して後背低地との比高が大きくなり、合流地点付近の後背低地に集まった水（内水）はこれらの河川に排水できなくなった。こうしてできた水溜りが新開池の正体である。

新開池にも大蛇伝説がある。先の内助は主人に大蛇であることを見破られ、そのまま新開池に飛び込んで姿を消したという。また、内助ケ渕の池床を干拓しようとした時、通りがかった僧侶が渕の主である大蛇が怒り狂っているので村人に開発を断念するよう諭したものの、忠告を聞き入れることなく工事をすすめてしまった。すると工事を主導した者の家が燃え、村人は大蛇の祟りに恐れをなし工事を中断したという。あるいは西堤神社の水神様は雨乞いの神であり、内助ケ渕に棲む大蛇が水神様を飲み込もうとしたが失敗し、鱗を一枚残して去っていったという。

夢のない話で申し訳ない。大蛇などいようはずがない。ましてや人が大蛇に変身することもありえない。大蛇の鱗もかなり怪しい。おそらくは新開池に安易に入ること、安易に開拓することを警告するためにできた説話であろう。とはいえ、新開池は渇水のタイミングを見計らって干拓がすすみ、徐々に縮小していった。江戸時代の初め頃は長田付近にまで水域が広がっていたようである。長田旧村が載っている自然堤防は、周辺より一段高くなっている。この高まりは新開池の南岸となっていた。新開池の干拓は長田付近から始まり、大和川付け替え直前には北側の楠根や稲田はすでに干拓を終えていた。さて、渇水で水が引くと池の底には「蛇行流路」が現れる。このような蛇行流路を大蛇に見立てたのではないだろうか。

（国史跡・重要文化財 鴻池新田会所　別所秀高）

【植田家住宅の・ちょっとだけ・トピックス】

植ちょピ（ックス）

◆終了したイベント

・「旧家で記念撮影～新年・成人の日～」

＝2020年1月5日(日)～26日(日)

2020年（令和2年）も無事新年を迎え、その記念と成人の日のお祝いに「旧家で記念撮影」のイベントを期間中に実施。一生に一度でリピーターがないイベントだけに毎年固定の利用は期待できないものの、今年も新成人とそのご家族等が数名、艶やかな着物姿で来館し、記念撮影を楽しんだ。対象となる新成人には、撮影した写真の印刷・転送サービスのほか、受付では景品付のおみくじも用意した。

・令和最初の「こどものためのお茶会」

＝2020年1月19日(日)

4歳児から中学生までを対象にした、令和最初の「こどものためのお茶会」には、今年も多くの親子連れが訪れた。地元女性会の方々の協力により、こどもたちは大人と一緒に入室から着座、お菓子、お茶に至るまでの作法をひと通り体験した。ひとりずつ順番が回ってくるにつれて緊張感が高まる中、前の人の所作をじっくりと観察しながらイメージトレーニングをする。親子で参加できる安心感から、こどもたちはのびのびとお茶を楽しんでいた様子だった。当日は着物姿や自作の茶碗を持参するこどもの姿もあった。

茶碗のもち方を教えられる様子

・「ギャラリー展示2019」終了

＝2020年1月5日(日)～31日(金)

今年度で11回目の開催を迎えた「ギャラリー展示」では、2019年に公募した7作品を、新年1月の期間中に展示。今回も「新旧大和川と新田会所周辺の風景」をテーマとして、様々な写生作品が集まった。旧大和川の歴史や風景、現在のまちなみの魅力などを再発見できる機会となった。

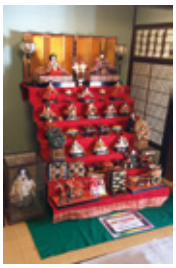
旧植田家住宅・神舎の狐も描かれた

・今年は寂しい「ひな祭り」

＝2020年2月22日(土)～3月15日(日)

毎年人気の「旧家で記念撮影～ひな祭り～」。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開始早々に臨時休館となってしまった。時間をかけて雛飾りの準備に取り組んでくれた実習生たちの苦労もむなしく、一週間だけのお披露目となった。その中で、早期に来館者があったことはせめてもの救いであったが、やはり「♪今年は寂しい、ひな祭り～♪」であった。

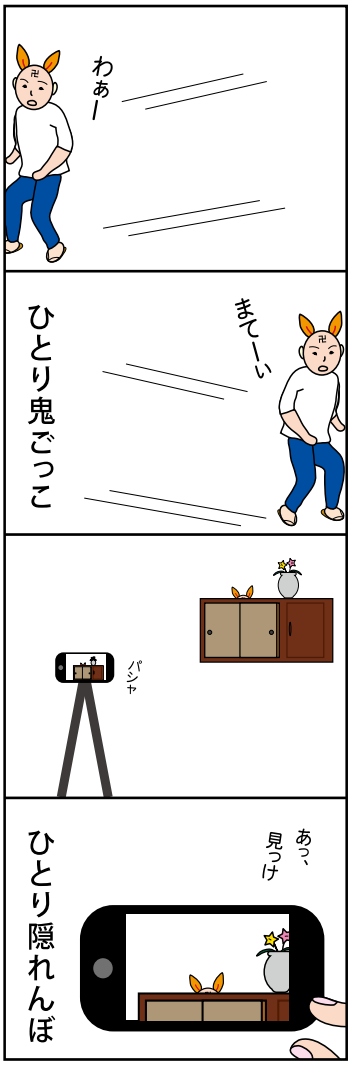
（旧植田家住宅スタッフ）



一週間だけのお披露目

マンジーくん

安富士 暁



落穂拾い
ー今東光の薫風ー（三十八）

文・伊東 健

二〇二〇年は東京オリンピックが開催される予定ですが、前回の東京オリンピックイヤーに今東光はどのような歳月を過ごしていたのか気になりました。

一九六四年の年が明けてすぐの二月に東光は長年の友人だった作家仲間の尾崎士郎を見送っています。戒名も東光が文光院殿士山豪雄大居士と名づけています。

川端康成が弔辞を読むなど、同年代の多くの作家が尾崎の死を悼みました。尾崎の訃報が流れてすぐに東光の追悼文が朝日新聞に掲載されました。

彼は良き奥さんを得て晩年は幸福な人生を送ったと確信する。それがせめてもの僕の慰めだが、六十有六年の生涯はあまりに短いといわずにはいられない。僕と同年で、一カ月早く生れた彼を喪うことは片腕を取られたような気がするのだ。現代が進歩したなどとたわごとをぬかしているが、ガンひとつ治すことができなくて何の進歩ぞやだ。僕は哀しさのあまり腹が立ってたまらん。

（「悲壮美描いた文人尾崎士郎氏を悼む」より昭和三十九（一九六四）年二月十九日付朝日新聞東京版朝刊より）

尾崎士郎の逝去は十九日の午前零時五十三分だったと記録されていますので、東光がその日の朝刊に追悼文を寄せたのは、早わざを通り越して、神技に近い気がします。

さらに詳しく調べてみると、この追悼文は東京版と大阪版の朝刊では内容が微妙に異なっているのを発見して、さらに驚いてしまいます。煩雑さを避けるため、比較の詳細は割愛しますが、先に引用した波線部分は大阪版にはない追加の文章になります。大阪版を書いてから、東京版を書き直し、電話で読みあげたのでしょうか。真相はわかりませんが、興味深い事実です。

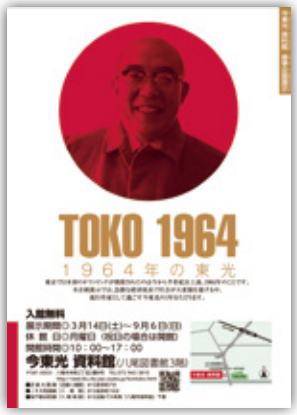
およそ十年後、東光が同じ病と闘うことになることも想像できませんが、再発したガンだったことも東光に残念な思いを募らせたようです。

尾崎士郎の癌が再発したらしいという噂を大阪で聞いて、僕は、どきんとした。（しまったー）という感じだ。というのは彼自身、僕に（このまんま再発さえしなければ俺は文字通りラッキー士郎だよ）と言っていたからだ。無論、僕も神かけて再発しないことを念じていたのだ。

（「尾崎士郎の片鱗」『中央公論』所収、昭和三十九（一九六四）年五月号特別付録より）

尾崎士郎と今東光はお互いの力量を認め合う似た者同士ともいえます。「人生劇場」で一世風靡をしながら、敗戦後の日本社会では戦争協力者とのレッテルを貼られ、公職追放となり休筆を余儀なくされた尾崎士郎は、一方で今東光の復活を予言していた仲間でもありました。

ああ、紙数が尽きました。続きは次回に。



今東光資料館・春季企画展示「1964年の東光」＊臨時休館中（～４月末現在）
（写真提供：今東光資料館）

＊本文は２月時点のものです。４月現在「緊急事態宣言」により5/6まで八尾市の一部公共施設は臨時休館しています（今後、変更の場合あり）。

旧植田家住宅のご案内 【2020年5月～8月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
〃 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催！

展　示

2020年

◎4月24日(金)～6月14日(日)
企画展示「古文書にみる植松」
※～5/6(祝)まで臨時休館(今後変更の場合あり)

◎6月17日(水)～7月19日(日)
通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

◎7月23日(祝・木)～9月13日(日)
企画展示「夏の扇(おうぎ)」展
※7/24・8/10(祝)展示解説の日(ギャラリートーク)

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
http://kyu-uedakejutaku.jp/

イベント

(詳しくはお問い合せください)

5月
★～17日(日) 旧家で記念撮影～こどもの日～
□ 9日(土) 畑活用計画1「河内木綿の綿を育てよう!」

6月
★6/1(月)～9/13(日) ギャラリーミニ展示「航空写真にみる八尾」
□ 7日(日) 旧大和川を歩く～ぶらり太田周辺～
■13日(土) 講座(第1回)「植松のむかし話・法話」山田隆章氏

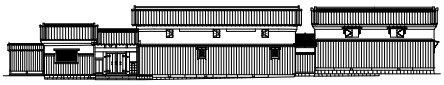
7月
★7/11(土)～9/13(日) 納涼企画「冷やし旧家、はじめました」
□25日(土) こども昔くらし体験(夏のくらし)

8月
■ 8日・22日(土) 夏休み工作体験「土蔵でクラフト」
□下旬(日未定) 夏のお茶会

※今後の予定については変更となる場合があります

休館日カレンダー

■＝休館日　□はイベント日



5 May　■＝臨時休館

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6 June

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7 July

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

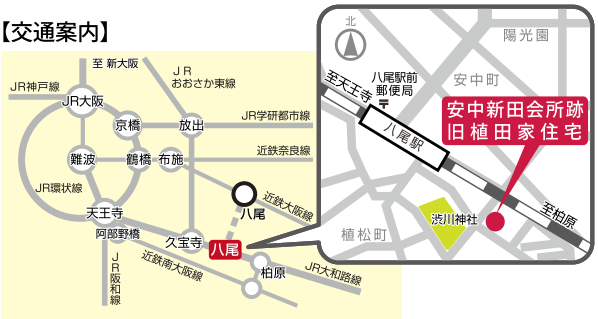
8 August

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

#編集中記

編集作業を行なっている四月十五日現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止と先日の「緊急事態宣言」発令による臨時休館の真只中。五月六日まで休館予定となっていますが、本紙発行後の5月の状況についてはわかっていません。▽今号より「植田家だより」の発行が年3回となります。新型コロナの影響ではなく消費増税によるものです。この非常事態の一日も早い終息と皆様の無事を願っています。

【交通案内】



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
　JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
●休 館 日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
　(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
●入 館 料：一般250円(団体20人以上で120円)
　高校・大学生120円(団体60円)
　※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX：072-992-5311
E-mail：　info@kyu-uedakejutaku.jp

旧植田家だより
KYU-UEDAKE INFORMATION
Vol.44

本当の幸せって？
本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性させたいと思っています。

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより　発行・編集／NPO 法人 HICALI（安中新田会所跡 旧植田家住宅指定管理者）
〒581-0084　大阪府八尾市植松町 1-1-25　TEL.072-992-5311
ホームページ　http://kyu-uedakejutaku.jp　メールアドレス　info@kyu-uedakejutaku.jp
●本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断複写、転載を禁じます。

〈本社・八尾工場〉〒581-0034　大阪府八尾市弓削町南1-18　TEL.072-948-7772　FAX.072-948-7735
〈京都支社〉TEL.075-812-3670　〈神戸支社〉TEL.078-341-8221　〈東京オフィス〉TEL.03-3436-0211
SEEDS CREATE 株式会社シーズクリエイト